



JBoss Enterprise Application Platform 6.1

6.1.1 リリースノート

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6.1.1 の新機能、既知の問題、および
サポート情報

エディション 1

JBoss Enterprise Application Platform 6.1 6.1.1 リリースノート

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6.1.1 の新機能、既知の問題、およびサポート情報
エディション 1

Darrin Mison

Red Hat Engineering Content Services

dmison@redhat.com

法律上の通知

Copyright © 2013 Red Hat, Inc..

This document is licensed by Red Hat under the [Creative Commons Attribution-ShareAlike 3.0 Unported License](#). If you distribute this document, or a modified version of it, you must provide attribution to Red Hat, Inc. and provide a link to the original. If the document is modified, all Red Hat trademarks must be removed.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux ® is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java ® is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS ® is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL ® is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js ® is an official trademark of Joyent. Red Hat Software Collections is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack ® Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本リリースノートには Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6.1.1 に関する重要な情報が含まれています。既知の問題、追加リソース、およびその他の現在の問題が記載されています。本リリースノートには、前リリース 6.1.0 より変更があった内容が記載されています。

目次

1. 概要	2
2. よくある質問	2
3. 新機能	4
4. 技術プレビューとして提供される機能	4
5. サポート対象外の機能	6
6. コンポーネント	7
7. 本リリースの変更内容	7
7.1. バグ修正	7
7.2. 改善点	16
7.3. 既知の問題	16
A. 改訂履歴	24

1. 概要

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 は、エンタープライズアプリケーションの開発およびデプロイ方法の大きな変化に対応する Red Hat の製品です。運用コストの削減や、新規アプリケーションの市場投入までの時間短縮を企業が望む中、JBoss Enterprise Application Platform 6 は将来的なビジョンに向けてリビルドされ、革新的なモジューラ、クラウド対応のアーキテクチャー、強力な管理と自動化、および世界クラスの開發生産性を提供します。

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 は Java EE 6 認定されています。強力かつ柔軟な管理、改善されたパフォーマンスや拡張性など、開発者の生産性を向上する多くの新機能を提供します。市場をリードする Red Hat の認定やサポートにより、管理および開発のニーズは今後も将来的に対応されます。

2. よくある質問

問： 本リリースでは何が変更になりましたか。

答： JBoss EAP 6.1.1 には多くの改善と修正が含まれています。詳細は「[本リリースの変更内容](#)」を参照してください。

問： 他のドキュメントはどこにありますか。

答： 完全な JBoss EAP 6.1 ドキュメントスイートは https://access.redhat.com/site/documentation/JBoss_Enterprise_Application_Platform/ にあります。

問： アップグレードの手順はどこにありますか。

答： アップグレードの手順はインストールガイドに記載されています。 https://access.redhat.com/site/documentation/JBoss_Enterprise_Application_Platform/ にあるドキュメントスイートを参照してください。

問： 本製品がサポートされるオペレーティングシステム、Java 仮想マシン、およびデータベースサーバーはどれですか。

答： JBoss EAP 6.1.1 でテストおよび検証されたオペレーティングシステム、Java 仮想マシン、データベースサーバー、および JDBC ドライバーの組み合わせは <https://access.redhat.com/site/articles/111663> の完全リストを参照してください。

問： 本製品に含まれる H2 データベースは本番環境でサポートされますか。

答： サポートされません。H2 データベースは、評価、テスト、および実証のみの目的で同梱されています。本番環境でサポートされる設定ではありません。詳細は <https://access.redhat.com/site/solutions/148633> を参照してください。

問： JBoss EAP 6.1.1 はどの業界標準をサポートしますか。

答： サポート対象の仕様および標準は <https://access.redhat.com/site/articles/113373> の完全リストを参照してください。

問： 本リリースへ移行する時にどのような問題が発生する可能性がありますか。

答： アプリケーションを本バージョンに移行する時に問題になる可能性がある、本リリースと以前のリリースの相違点は、「[本リリースの変更内容](#)」を参照してください。

問： 本リリースに含まれているコンポーネントとそのバージョンを教えてください。

答： 含まれているコンポーネントの完全リストは <https://access.redhat.com/site/articles/112673> を参照してください。

問： 本リリースに含まれる技術プレビューはどれですか。

答： JBoss EAP 6.1.1 には多くの技術プレビューの機能が含まれています。技術プレビューの機能はサポートされず、機能的に完全ではないことがあるため、本番環境での使用は想定していません。技術プレビューは、最新の技術をいち早く提供することで、開発中に機能のテストやフィードバックの収集を実現する目的で同梱されます。

本リリースの技術プレビュー機能の完全リストは「[技術プレビューとして提供される機能](#)」を参照してください。

問： サポート連絡先の詳細はどこにありますか。

答： サポート方針の詳細は次の URL にあります。

サポートプロセス

<http://www.redhat.com/support/process/>

プロダクション (実稼働) サポートの対象範囲

<http://www.redhat.com/support/policy/soc/production>

プロダクション (実稼働) サポートのサービスレベル合意書

<http://www.redhat.com/support/policy/sla/production/>

開発者サポートの対象範囲

<http://www.redhat.com/support/policy/soc/developer/>

開発者サポートのサービスレベル合意書

<http://www.redhat.com/support/policy/sla/developer/>

製品の更新およびサポートポリシー (製品別)

http://www.redhat.com/security/updates/jboss_notes/

JBoss エンドユーザー使用許諾契約書

http://www.redhat.com/licenses/jboss_eula.html

問：ドキュメントに誤りがあった場合、どのように報告したらいいですか。

答：本書に対するフィードバックを提出するには、<https://bugzilla.redhat.com> にてバグを登録し、製品名 **JBoss Enterprise Application Platform**、バージョン **6.1.1**、およびコンポーネント **documentation-6.1.1_Release_Notes** を指定します。

次の URL からアクセスすると、製品名、バージョン、およびコンポーネントのフィールドが自動的に入力されます：https://bugzilla.redhat.com/enter_bug.cgi?component=doc-Release_Notes&product=JBoss%20Enterprise%20Application%20Platform%206&version=6.1.1

3. 新機能

次の新機能が Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6.1.1 に追加されました。

4. 技術プレビューとして提供される機能

次の設定や機能は既知の問題が存在するため、技術プレビューとしてのみ提供されます。本番環境ではサポートされません。

JGroups による HornetQ 検出

HornetQ は、UDP および JGroups を介したサーバー接続設定の動的検出を提供するようになりました。

JBoss Web Services による WS-Trust/STS

JBoss Web Services は基礎となる CXF 実装より WS-Trust/STS 機能を公開するようになりました。

JBoss CLI サイレントモード

CLI を埋め込むプロセスに対し、CommandContext API に「サイレントモード」が追加されました。

JBoss CLI によるモジュールの追加

CLI に、モジュールを追加および削除する新しいコマンドが導入されました。

syslog ハンドラー設定

EAP は syslog プロトコル向けのハンドラーおよび設定を提供するようになりました。

新しい Hibernate バッチローディングアルゴリズム

Hibernate の既存のレガシーアルゴリズムに、動的と埋め込みの 2 つのバッチローディングアルゴリズムが追加されました。

Hibernate - 非可変データにおけるオブジェクト参照の 2 次キャッシングの向上

Hibernate - バイトコードエンハンスメントサポートの向上および拡大

WS-AT/XA ブリッジ

WS-AT/XA トランザクションブリッジ機能は技術プレビューとしてのみ提供され、本番環境ではサポートされません。

Hibernate Validator による RestEasy の検証

JBoss EAP 6 に含まれる Hibernate Validator をサポートするため、RestEasy は検証プロバイダーを提供するようになりました。

ServiceMBean ヘルパークラスの復元

JBoss EAP 6 の以前のバージョンで使用できた MBean の作成に便利なヘルパークラスを復元するため、モジュール `org.jboss.as.system-jmx` が導入されました。

Multi-JSF

この機能により、EAP が提供する JSF 実装を、ユーザー提供の JSF 実装に置き換えることが可能になります。

トランザクションの JDBC ストア

JDBC データベースをストアとして使用するよう JBoss Transactions を設定できるようになりました。CLI ツールを使用して以下の 2 つの属性を設定すると、この設定がトランザクションサブシステムで有効になります。

1. `use-jdbc-store` を `true` に設定します。

```
/subsystem=transactions:write-attribute(name=use-jdbc-store,
value=true)
```

2. `jdbc-store-datasource` を使用するデータソースの JNDI 名に設定します。

```
/subsystem=transactions:write-attribute(name=jdbc-store-
datasource, value=java:jboss/datasources/TransDS)
```

属性の完全リストは次の通りです。

表1 トランザクション JDBC ストアプロパティ

プロパティ	説明
<code>use-jdbc-store</code>	<code>true</code> に設定して、トランザクションの JDBC ストアを有効にします。
<code>jdbc-store-datasource</code>	ストレージとして使用する JDBC データソースの JNDI 名。
<code>jdbc-action-store-drop-table</code>	起動時にアクションストアテーブルをドロップおよび再作成します。このプロパティは任意で、デフォルトは <code>false</code> です。
<code>jdbc-action-store-table-prefix</code>	アクションストアテーブル名のプレフィックスです。任意のプロパティです。

プロパティ	説明
<code>jdbc-communication-store-drop-table</code>	起動時にコミュニケーションストアテーブルをドロップおよび再作成します。このプロパティは任意で、デフォルトは <code>false</code> です。
<code>jdbc-communication-store-table-prefix</code>	コミュニケーションストアテーブル名のプレフィックスです。任意のプロパティです。
<code>jdbc-state-store-drop-table</code>	起動時に状態ストアテーブルをドロップおよび再作成します。任意のプロパティで、デフォルトは <code>false</code> です。
<code>jdbc-state-store-table-prefix</code>	状態ストアテーブル名のプレフィックスです。任意のプロパティです。

5. サポート対象外の機能

JBoss Enterprise Application Platform 5 で挙動した設定の一部がサポート対象外になりました。これらの設定を確認してください。

Infinispan API

Infinispan API の直接使用は JBoss EAP 6 ではサポートされません。Infinispan は、JBoss Enterprise Application Platform 内部のさまざまなクラスタリング技術に対する実装詳細として使用されます。直接使用は不可能ですが、API の `module.xml` には直接使用が可能であると誤って記載されています。これは今後のリリースで修正される予定です。Infinispan API の直接使用には、JBoss Data Grid へのサブスクリプションが必要になります。

JDK 6 における IPv6 の制限

次の IPv6 の制限は JDK 6 が原因で、JBoss EAP 6 の欠陥ではありません。

1. Microsoft Windows Server では、JDK 6 の IPv6 実装は部分的になります。この実装は JBoss EAP 6 の実行には不十分です。Microsoft Windows Server で IPv6 を完全サポートするには JDK 7 が必要になります。
2. Red Hat Enterprise Linux では、Oracle JDK 6 のバグにより、クライアント (接続を確立するネットワークポイント) に指定されたアドレスに `zone-id` が含まれると動作しません。`zone-id` を使用するには、JDK 7 へアップグレードするか、バグが発生しない Red Hat Enterprise Linux 向けの IcedTea/OpenJDK 6 を使用します。このバグの詳細は http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6800096 and <https://issues.jboss.org/browse/JBPAPP-8833> を参照してください。

JTA トランザクション外部の JPA 2.0 コンテキスト伝播

拡張永続コンテキスト (XPC) の伝播は、トランザクションの存在を考慮せず、XPC は常に伝播されました。この挙動は JPA 2.0 仕様に準拠していません。XPC の処理が変更され、アクティブなトランザクションが存在しない場合、XPC の伝播は無視され、呼び出された Bean は XPC ではなく独自の永続コンテキストを持つようになりました。

アプリケーションが JTA トランザクション外部で拡張永続コンテキストが伝播されることを想定する場合、アプリケーションの変更が必要であるか考慮する必要があります。アプリケーションの更新に関する説明は、Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 移行ガイドを参照してください。

JBoss Enterprise Application Platform 5 では、この挙動を実現するためシステムプロパティー (JBPAPP-923.alwaysPropagate) が提供されましたが、JBoss EAP 6 では使用できません。

詳細は <https://issues.jboss.org/browse/AS7-1663> を参照してください。

PicketLink IDM

PicketLink IDM (ID 管理) は JBoss EAP 6 ではサポートされません。

PicketLink STS

PicketLink STS (セキュリティトークンサービス) は JBoss EAP 6 ではサポートされません。

Tanuki Service Wrapper

Tanuki Service Wrapper は JBoss EAP 6 ではサポートされません。詳細は <https://issues.jboss.org/browse/JBPAPP-8651> を参照してください。

Microsoft SQL Server 2008 での XA リカバリー

XA リカバリーは Microsoft SQL Server 2008 R1 では動作しませんが、Microsoft SQL Server 2008 R2 SP2 では動作します。詳細は次の URL を参照してください。

- <https://issues.jboss.org/browse/JBPAPP-8983>
- https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=901254
- <https://community.jboss.org/thread/145358>

MySQL での XA リカバリー

MySQL JDBC ドライバーは XA リカバリーを正しく実装しません。詳細は <https://issues.jboss.org/browse/JBPAPP-2576> を参照してください。

JBoss OSGi

OSGi 仕様の実装である JBoss OSGi は、技術プレビューからサポート対象外に格下げされました。詳細は <https://access.redhat.com/site/solutions/362814> を参照してください。

6. コンポーネント

JBoss EAP 6 のコンポーネントマトリックスは <https://access.redhat.com/knowledge/articles/112673> を参照してください。

7. 本リリースの変更内容

7.1. バグ修正

Apache サーバー (httpd) およびコネクタ

987851 -OCSP の複数の問題

https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=987851 を参照してください。

ビルド

983322 - org.apache.commons.configuration に org.apache.commons.beanutils の依存関係がない

以前のバージョンの Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 では org.apache.commons.configuration モジュールが org.apache.commons.beanutils モジュールの依存関係を宣言しませんでした。これにより、特定のコードパスを使用した時に BeanUtils クラスがないため設定クラスが ClassNotFoundException をスローしました。本リリースでは org.apache.commons.configuration に依存関係が追加されたため、コードが ClassNotFoundException をスローしないようになりました。

979284 - EAP-6.1 Maven リポジトリに誤った jcip-annotations-1.0-redhat-3.pom が含まれている

以前のバージョンの Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 では、一部のユーザーに IVY 依存関係マネージャーでの依存関係解決の問題が発生しました。

この問題は、/JBOSS_HOME/net/jcip/jcip-annotations/1.0-redhat-3/jcip-annotations-1.0-redhat-3.pom ファイルに誤ったアーティファクト参照が存在したことが原因でした。

このエラーは修正され、依存関係が想定通り解決されるようになりました。

CLI

961425 - EAP 6.1 CLI スクリプトの使用が最後の新しい行で中断する

Aesh (Another Extendable Shell) コンポーネントのバグにより、Aesh がデータチャンクを正しく解析しませんでした。データの最後のバイトが新しい行で、さらにその前のデータに新しい行が含まれている場合、解析されませんでした。

この問題は、ユーザーのカスタム CLI スクリプトが失敗する原因となっていることが判明しました。

Aesh のバグは修正され、ユーザースクリプトは以前のバージョンの Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 のように機能するようになりました。

コンソール

910718 -接続損失時にコンソールが適切に反応すべき

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 で使用される Web 管理インターフェースは Google Web Toolkit (GWT) アプリケーションであるため、GWT の遅延バインドイングを使用してオンデマンドでアプリケーションコンポーネントをロードします。場合によっては、問題の原因が示されないまま遅延ローディングに失敗し、アプリケーション全体がフリーズすることがありました。

本リリースでは、遅延バインドイングの適切なエラー処理が導入されました。

アプリケーションコンポーネントをオンデマンドでロードしている時に問題が発生した場合、例外が正常に処理され、Web コンソールへ継続してアクセスできるようになりました。

908664 -ブリッジに対するフェイルオーバープロパティの廃止

以前のバージョンの Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 では、HornetQ サブシステムの `FAILOVER_ON_SERVER_SHUTDOWN` プロパティは廃止されたにもかかわらず、コンソールを介してこのプロパティを設定できるオプションがありました。また、設定した内容は無視されました。本リリースではこのオプションがコンソールから削除されました。

ドメイン管理

960497 - whoami 操作時に突然ドメイン全体の設定ロックが必要になる

以前のバージョンの Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 では、`whoami` 操作が読み取り専用になっていませんでした。そのため、この操作を実行するとドメイン全体の書き込みロックを取得しました。そのため、他のタスクの実行に悪影響を与えることがあり、場合によっては **Out of Memory** エラーが発生することがありました。本リリースでは、`whoami` メタデータに **読み取り専用** フラグが設定され、この挙動が修正されました。これにより、他の操作が想定通り機能するようになりました。

968815 - 「JBAS014807: Management resource ... not found」により CLI から JGroups サブシステムを削除できない

以前のバージョンの Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 では、サーバーのプロファイルを定義する要素がない状態で `JGroupsSubsystemRemove` に含まれるパスがフォーマットされました。

スタンドアロン環境では問題ありませんでしたが、ドメインモードでは次のコマンドを使用して `JGroups` サブシステムを削除しようとするとエラーが発生しました。

```
[domain@localhost:9999 /] /profile=test/subsystem=jgroups:remove()
```

このコマンドを実行すると「JBAS014807: Management resource [(\\"subsystem\\" => \\"jgroups\\")] not found」というエラーが発生しました。

本バージョンの Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 には `PathAddress` になかったプロファイル要素が追加され、上記の CLI コマンドを実行して `JGroups` サブシステムを削除できるようになりました。

EE

978603 - 潜在的な jboss-invocation プロキシの競合がイニシャライザーで NPE を発生する

以前のバージョンの Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 では、`jboss-invocation` は `ThreadLocal` を使用して情報をプロキシの静的イニシャライザーに渡していました。そのため、2 つ目のスレッドが定義直後にプロキシを使用した場合、そのスレッドは静的イニシャライザーを呼び出しましたがイニシャライザーが想定する `ThreadLocal` データが存在しないため、`NullPointerException` が発生しました。

本リリースではこの挙動が修正され、`NPE` が発生しないようになりました。

EJB

956227 - java.lang.ArrayIndexOutOfBoundsException

以前のバージョンの JBoss EAP 6 では、ノード識別子が 10 文字以上のリモートサーバーで EJB を呼び出すと問題が発生しました。これが原因で `ArrayIndexOutOfBoundsException` がスローさ

れました。

この問題は EJB クライアントライブラリで修正され、ノード識別子の解析中に Xid が適切に生成されるようになりました。その結果、リモートサーバー上で EJB を呼び出しても、ノード識別子の長さが原因で例外がスローされることはなくなりました。

910193 - ejb タイマーサービスが、タイマーの有無に関係なくすべての ejb に空のディレクトリを作成する

以前のバージョンの Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 では、タイマーを实际使用する bean だけでなく、タイマーサービスを持つことができるすべての bean に対してタイマーサービスが作成されました。その結果、サービスの起動時に、不必要なタイマーデータ用のディレクトリが作成されました。

この問題は解決され、タイムアウトまたはスケジュールメソッドを持つ bean のみに対してタイマーサービスが起動するようになりました。その他の EJB は、JNDI でルックアップでき (Java EE 仕様に準拠)、タイマーをスケジュールしない (EJB はタイムアウトメソッドを持たないため) 未機能のタイマーサービスを使用するようになりました。

909804 - クライアントがローカルで送信したコンテキストデータを EJB が受信しない

以前のバージョンの Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 では、呼び出しを処理するために使用された LocalEJBReceiver を持つ呼び出し側のクライアントと同じサーバーインスタンス上にデプロイされた bean のリモート EJB インターフェース上で呼び出しを行うとバグが発生しました。特定の呼び出しデータを渡すために EJB クライアントインターセプターがこれらのインスタンスで使用され、ターゲット EJB または EJB 呼び出しに適用可能なサーバー側インターセプターへデータが伝播されませんでした。本リリースではこの問題を解決するパッチが追加され、すべてのデータが適切に伝播されるようになりました。

950864 - SFSB が削除されると散発的な NullPointerException がスローされる

https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=950864 を参照してください。

983324 - 起動時に EJBClientContext で ConcurrentModificationException が発生する

https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=983324 を参照してください。

981174 - JTS トランザクションを使用すると javax.transaction.xa.XAException がスローされる

https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=981174 を参照してください。

959236 - @Clustered が付けられた SLSB のリモート呼び出しが最初の呼び出しでハングする

JBoss EAP 6 では、EJB 呼び出しのクラスター化されたサーバーと対話するとクライアントがハングする可能性がある問題が存在しました。

この問題は、サーバーによる EJBClientContext の構築中に発生しました。これは、サーバーがクラスタポートロジをあるスレッドのクライアントへ送信した時に、他のスレッドが EJBClientContext を継続して構築したため発生しました。このような状況でデッドロックが発生するとクライアントがハングし、クライアントが終了した後にサーバーのシャットダウンもハングする原因となりました。

この問題に対応するため、内部の実装コードパスがデッドロックの原因にならないよう EJBClientContext ライブラリを修正しました。

981720 - Hibernate 4.2.0.SP1 へのアップグレード

https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=981720 を参照してください。

HornetQ**959789 - HQ コアブリッジがフェールオーバーしない**

以前のバージョンの JBoss EAP 6 では、プライマリ HornetQ サーバーが使用できなくなった時に HornetQ コアブリッジサーバーがバックアップ HornetQ へ適切にフェールオーバーしませんでした。この問題は、HornetQ コアブリッジサーバーが正しいバックアップ HornetQ サーバーではない別のサーバーノードへ再接続しようとしたため発生しました。

この問題は本リリースの JBoss EAP 6 で修正され、プライマリ HornetQ サーバーが使用できなくなった時に、HornetQ コアブリッジサーバーが常にバックアップ HornetQ サーバーへ接続を試行するようになりました。

963215 - JMS ブリッジがフェールオーバーしない

https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=963215 を参照してください。

986362 - ironjacamar が HornetQResourceAdapter でサポートされていないメソッドを呼び出すためインフロー (inflow) トランザクションリカバリーに失敗する

JBoss EAP 6 では、HornetQ トランザクションのリカバリー中に、トランザクションが正常終了してもトランザクションマネージャーがエラーメッセージをログに出力する問題がありました。

これは、JCA アダプター (IronJacamar) がインフロー XID の MDB リソースアダプターを要求することが原因でした。HornetQ は HornetQ 自体を独自にトランザクションマネージャーに登録するため、HornetQ は IronJacamar のリカバリーメカニズムを混乱させる例外をスローしました。

その結果、下例のような無視してもかまわない警告がトランザクションマネージャー上に出力されました。

```
ERROR [org.jboss.jca.core.tx.jbossts.XAResourceRecoveryInflowImpl]
(Periodic Recovery) IJ000902: Error
during inflow crash recovery for 'org.hornetq.ra.HornetQResourceAdapter'
(org.hornetq.ra.inflow.HornetQActivationSpec(ra=org.hornetq.ra.HornetQResourceAdapter@4f02d3d2
destination=jms/queue/InQueue destinationType=javax.jms.Queue ack=Auto-
acknowledge durable=false clientID=null user=null
maxSession=15)): javax.resource.ResourceException: Unsupported
    at
    org.hornetq.ra.HornetQResourceAdapter.getXAResources(HornetQResourceAdapter.java:204)
```

Unsupported 例外をスローせず、空の配列を IronJacamar へ返さないようにしたため、この問題は修正されました。そのため、無視してもかまわない警告が出力されなくなり、トランザクションマネージャーのリカバリー中にトランザクションが終了するようになりました。

991049 - TX リカバリーが実行されると誤ったログレベルが XAException に使用される

https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=991049 を参照してください。

インストーラー

977736 - appclient 起動スクリプトおよび設定ファイルは appclient がいない状態でインストールされるべきでない

JBoss EAP 6 のインストーラーを使用した場合に、**Pack Installation** スクリーンの **AppClient+** チェックボックスを消去しても **AppClient** ファイルがインストールされました。

このインストーラーの問題は本リリースの **JBoss EAP 6** で修正され、**AppClient+** チェックボックスを選択した場合のみ **AppClient** ファイルがインストールされるようになりました。

977717 - 一部の言語では Alt キーを使うショートカットが使用できない

以前のバージョンの **JBoss EAP 6** インストーラーでは、一部の言語でボタンのキーボードショートカットが使用できない問題がありました。

キーボードのショートカットとして示されていたボタンのラベルの最初の文字が他のショートカットと同じ場合に発生しました。

たとえば、**Next** のスペイン語のボタンは **Siguiente** で、**Cancel** は **Salir** です。両方の場合で **Alt+S** の組み合わせを示す下線の付いた **S** が表示されました。しかし、このキーの組み合わせは **Salir (Cancel)** ボタンをトリガーし、**Siguiente (Next)** ボタンをトリガーするキーの組み合わせがありませんでした。

本リリースの **JBoss EAP 6** では、インストーラーの各ステップで表示されるすべてのボタンに一意の下線付き文字が使用されるようになり、キーボードのショートカットが機能するようになりました。

977822 - HP-UX にネイティブコンポーネントをインストールするオプションがない

64 ビット JVM の Hewlett-Packard HP-UX 上でテキストベースのインストーラーを実行すると、ネイティブコンポーネントがインストールオプションになかったため、この方法でネイティブコンポーネントをインストールできませんでした。これは、インストーラーの設定ファイルに **HP-UX** の 64 ビットネイティブコンポーネントへの参照がなかったことが原因でした。この問題は修正され、32 ビットまたは 64 ビットの JVM でテキストベースのインストーラーする場合に、インストールオプションでネイティブコンポーネントを選択できるようになりました。

JCA

976294 - regression (バグの再発): プリミティブ型を引数として取るプロパティーを持つ ResourceAdaptor (rar) を使用するとデプロイに失敗する

以前のバージョンの **JBoss EAP 6** では、プリミティブデータ型を引数として使用するプロパティーを持つリソースアダプターを使用すると問題が発生しました。

この問題により、リソースアダプターがデプロイできず、リソースアダプターの属性が設定されていないというメッセージがログファイルに記録されました。

本バージョンの **JBoss EAP 6** では、データ型のイントロスペクションを使用して、プリミティブデータ型を含む属性をチェックするようになったため、この問題は修正されました。

プリミティブデータ型を引数として使用しても、リソースアダプターをデプロイできるようになりました。

913804 - ManagedConnectionFactory の LogWriter が何も stdout へ出力しない

以前のバージョンの JBoss EAP 6 では、**ManagedConnectionFactory** の **setLogWriter** メソッドより渡された **PrintWriter** オブジェクトは、ログメッセージを標準出力 (stdout) へ出力していませんでした。

これは、**AbstractResourceAdapterDeploymentService** クラス内の **PrintWriter** が **autoflush** に設定されていなかったため、本リリースではこれが修正されました。

ManagedConnectionFactory の **setLogWriter** メソッドによって設定された **PrintWriter** オブジェクトの出力メッセージが **stdout** に出力されるようになりました。

980920 - ResourceAdapter インスタンスがインフロークラッシュリカバリーに登録されない

以前のバージョンの JBoss EAP 6 では、リソースアダプターがインフロークラッシュリカバリーに対して登録されませんでした。その結果、XA リカバリーがインフローリソースアダプターで実行されず、サーバークラッシュの後に一貫性のないステートになることがありました。

本リリースの JBoss EAP 6 では、インフローリソースアダプターがアクティベートされると、クラッシュリカバリーに対して登録されるようになりました。その結果、サーバークラッシュ時に、インフローリソースアダプターの一貫したステートを維持できるようになりました。

ロギング

969530 - ロギングサブシステムが想定する前に JBoss LogManager が初期化されると ClassCastException が発生する

JBoss LogManager が、カスタム Java エージェントなど (Introscope または JMX エージェントなど) のブートクラスパスに追加されると、JBoss LogManager はロギングサブシステム独自のコンフィギュレーターではなくデフォルトのコンフィギュレーターを使用してブートされました。

ロギングサブシステムは、独自のコンフィギュレーターの使用を想定していたため、JBoss EAP 6 が起動せず、以下のエラーが表示されました。

```
ERROR [org.jboss.as.controller.management-operation] (ServerService Thread Pool -- 5) JBAS014612: Operation ("add") failed - address: ([
  ("subsystem" => "logging"),
  ("console-handler" => "CONSOLE")
]): java.lang.ClassCastException:
org.jboss.logmanager.PropertyConfigurator cannot be cast to
org.jboss.as.logging.logmanager.ConfigurationPersistence
...
```

この問題は本リリースの JBoss EAP 6 で修正されたため、ロギングサブシステムは独自のコンフィギュレーターの使用を想定しないようになりました。ロギングサブシステムの独自のコンフィギュレーターが使用されなかった場合、元のコンフィギュレーター (通常はデフォルトのコンフィギュレーター) が使用されます。

この修正により、JBoss LogManager の初期設定に影響を与えずにカスタム Java エージェントを使用できるようになりました。

971190 - log4j アペンダーが再起動時にアペンダー/ハンドラーの初期化を強制する

以前のバージョンの JBoss EAP 6 では、カスタムの Apache log4j アペンダーが追加されると、ブートストラップ中に、手作業で設定されたアペンダーのクラス名と含まれるクラス名が誤って比較されました。

この問題により、JBoss EAP 6 インスタンスがリブートされるたびにカスタムハンドラーが再設定されました。これにより、`append` に設定されていない `FileAppender` を使用する設定に影響があり、ログファイルが上書きされる可能性があります。

`org.jboss.as.logging.logmanager.Log4jAppenderHandler` という名前の `java.util.logging.Handler` にある `log4j` アペンダーをラップし、ハンドラーよりアペンダーのクラス名でクラス名を適切にチェックするようになったため、この問題は修正されました。

その結果、チェックが一致すると、JBoss EAP 6 インスタンスのリブートごとにカスタムの `log4j` アペンダーハンドラーは設定されません。

975557 - Syslog ハンドラー: マルチバイト文字に対してメッセージの長さが正しく算出されない

以前のバージョンの JBoss EAP 6 では、`syslog` ハンドラーはメッセージの長さを適切に計算しませんでした。メッセージの合計バイト数を算出せずに、誤って文字数を算出していました。

`syslog` メッセージに 1 バイトを越える文字 (ウムラウトが付いた文字など) が含まれていると、無効なメッセージ長が送信されました。この問題により、一部のログメッセージに無効な文字が含まれていたり、文字が抜けていたりすることがありました。

本バージョンの JBoss EAP 6 では、`syslog` ハンドラーが更新され、`syslog` メッセージの長さが適切に算出されるようになりました。無効なメッセージ長が原因で、無効な文字や文字抜け

975559 - `prepare` が呼び出されると、ハンドラーのロールバックが null インスタンスの参照を取得する

以前のバージョンの JBoss EAP 6 では、アペンダーの名前が同じままであると、`Apache log4j` アペンダーを削除および再追加するコンポジット (`composite`) 操作のロールバックに失敗しました。以前の `log4j` アペンダーへの参照がすでに削除されているため、コンポジット操作のロールバックに失敗しました。

`log4j` アペンダーへの参照は後で作成できます。そのため、`log4j` アペンダーへの参照が存在するかを検証しなくなったため、この問題は修正されました。

この修正により、`Apache log4j` アペンダーを削除および再追加するコンポジット操作がロールバックされても、エラーが表示されないようになりました。

981544 - `PeriodicRotatingFileHandler` が 12AM にファイルをロールせず、12PM にはロールする

以前のバージョンの Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 には、再起動の翌日に `LogManager` がログファイルをローテーションしない原因となるバグが存在しました。これは、サーバーが PM の時間内に再起動すると発生しました。`LogManager` が正しく半日の周期を処理しないことが原因でした。`LogManager` のバージョンが更新され、このバグは修正されました。

975085 - カスタムロギングハンドラーを削除できない

以前のバージョンの JBoss EAP 6 では、カスタムログハンドラー (`Apache log5j` など) の削除処理中、インスタンスが削除された後に設定後のメソッドの実行が試行されました。その結果、カスタムログハンドラーの削除に失敗しました。

本リリースの JBoss EAP 6 では、この問題が発生しないようにするためロギングサブシステムに変更が加えられたため、カスタムログハンドラーを削除できるようになりました。

973450 - 値が同等でもファイル属性が常にファイルを置き換える

以前のバージョンの JBoss EAP 6 では、ブートストラップ中にファイルログハンドラーによって記録されたログイベントが上書きされる問題が存在しました。この問題は、ファイルログハンドラーが `append` に設定されていない場合に発生しました。

これは、ロギングファイルシステムがファイルログハンドラーの **FILE** 属性値とブートストラップ中に使用された値を比較する時に **FILE** 属性値を適切にチェックしなかったため発生しました。

本リリースの JBoss EAP 6 では、この問題を修正するためロギングサブシステムが更新されました。`append` に設定されていないファイルログハンドラーでは、適切に **FILE** 属性がブートストラップ中に使用された値に対してチェックされるようになったため、ブートストラップ中に記録されたイベントは上書きされないようになりました。

PicketLink

956782 - CSS ファイルを使用する IDP に「ホストされた」ページが原因で `java.lang.IllegalStateException: getOutputStream() has already been called for this response` が発生する

https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=956782 を参照してください。

セキュリティ

958252 - クラスター化された SSO が有効であると `HttpServletRequest.logout()` がセッションを無効化する

以前のバージョンの Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 では、SSO が使用されると `HttpServletRequest.logout()` への呼び出しによりセッションが無効化されました。この場合、想定される挙動はセッションのログアウトで、無効化ではありませんでした。

本リリースには、

`org.apache.catalina.authenticator.AuthenticatorBase.UNREGISTER_SSO_ON_LOGOUT` システムプロパティが追加されました。このプロパティはセッションを無効化せずに、想定通りログアウトできるようにします。

このプロパティを使用すると、SSO のログアウトにおける新旧の挙動を切り替えできます。`UNREGISTER_SSO_ON_LOGOUT` を `false` に設定すると (デフォルト設定)、仕様どおりに無効化されずにセッションがログアウトします。`UNREGISTER_SSO_ON_LOGOUT` を `true` に設定すると、ログアウトの挙動を無効化する元のセッションが使用されます。

トランザクションマネージャー

968125 - `FileSystemStore.openAndLock` のパフォーマンスの問題

https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=968125 を参照してください。

Web

900886 - `org.jboss.web.tomcat.security.GenericHeaderAuthenticator` が EAP6 がない

最近のバージョンの Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 にはヘッダーベースの認証ファシリティが含まれていませんでした。この問題に対応するため、本バージョンに `org.jboss.as.web.security.GenericHeaderAuthenticator` が導入されました。

922180 - ContextConfig.authenticatorConfig() の競合状態

以前のバージョンの Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 には、潜在的な競合状態が含まれており、これにより JBossWeb オーセンティケーターを使用するアプリケーションがロードできないことがありました。この問題は、`org.apache.catalina.startup.ContextConfig` と オーセンティケータープロパティのインスタンス化が原因でした。インスタンス化するスレッドがオーセンティケータープロパティをロードし終わる前に、1つのスレッドがオーセンティケータープロパティの使用を試行できることが判明しました。本リリースではこの競合状態を防ぐために静的イニシャライザーが使用され、アプリケーションが想定通りロードするようになりました。

doc-Administration_and_Configuration_Guide

988827 - 16.5.3. How to install mod_cluster from RPM が存在しない

https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=988827 を参照してください。

jbossas

963298 - モジュールサービス依存関係が推移的な依存関係を考慮しない

依存関係グラフの解決は、デプロイメントマニフェストに指定された **Class-Path** が推移的である可能性がある場合を考慮していませんでした。

これにより、すべての依存関係が起動される前にモジュールが起動を試み、アプリケーションがデプロイに失敗したため、次の例外が発生しました。

```
Caused by: org.jboss.modules.ModuleLoadException: JBAS018760: Timeout
waiting for module service: deployment.example.ear.example-ejb.jar:main
...
```

この問題を修正するため、マルチステージの解決処理が追加されたため、すべての依存モジュール仕様サービスが起動した後にモジュールサービスが起動されるようになりました。

その結果、推移的な依存関係が **Class-Path** に指定されている場合でもデプロイメントに失敗しないようになりました。

7.2. 改善点

ビルド、Maven リポジトリ

987273 - カスタマー使用度の BOM が指定されていない

継続的に行われている Red Hat JBoss Enterprise Application Platform の開発効率化の一環として、本リリースにはダウンロード可能な JBoss Enterprise Application Platform 6 Maven リポジトリと使用する新しい BOM (Bill of Materials) ファイルが含まれています。新しい BOM ファイルやリポジトリのダウンロードに関する詳細は JBoss Enterprise Application Platform の開発ガイドを参照してください。

7.3. 既知の問題

クラスタリング

959753 - DIST SYNC: 「初期ステータス転送タイムアウト」でノードを再起動した後、サービス `jboss.infinispan.web.default-host/XY` が起動しない

https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=959753 を参照してください

900483 - ノードのシャットダウンで DIST SYNC を使用すると陳腐セッションデータが受信される

テスト中、ノードのシャットダウンで **DIST SYNC** または **DIST ASYNC** キャッシュモードが使用されると、陳腐セッションデータが受信される場合が数件ありました。この問題は現在調査中です。

900707 - 文字列「localhost」がデフォルト値の一部に使用されると、プロパティーの置換が動作しない

JGroups サブシステムの設定で `localhost` がデフォルト値の一部として使用されると、プロパティーの置換が正しく動作しません。プロパティーの置換は JBoss Enterprise Application Platform 6 サブシステムに提供される機能ですが、すべてのサブシステムで有効になっておらず、一部のサブシステム (JGroups など) は独自の置換を行います。この挙動は標準化されておらず、サポート対象のサブシステムプロパティーと異なっています。Red Hat は、この問題が解決するまで JGroups サブシステムでプロパティーの置換を使用しないことを推奨します。

900378 - SET レプリケーショントリガーを持つ CDI Bean がレプリケートしない

Weld コンポーネントのバグが原因で、`setAttribute` メソッドが適切に呼び出されません。これにより、SET レプリケーショントリガーを持つ CDI Bean がレプリケートされません。この問題を回避するには、これらの Bean に `SET_AND_NON_PRIMITIVE_GET` トリガーを使用します。

ディストリビューション

965315 - ユーザースクリプトの `jboss-ec2-eap` タイムアウトが適切に動作しない

JBoss Enterprise Application Platform の AMI イメージのユーザースクリプトに実装されたタイムアウト機能が動作しません。ユーザースクリプトのコマンドがハングすると、仮想マシンが正常に起動しません。タイムアウト機能は、ハングしたユーザースクリプトコマンドに関係なく仮想マシンが継続して起動できるようにし、ユーザースクリプト上で診断を行うための機能です。Bash シェルが非対話シェルでジョブ制御をサポートせず、ユーザースクリプトに実装されたタイムアウトがこの機能を必要とすることがこの問題の原因です。現在、回避法はありませんが、次のリリースで解決される予定です。

EJB

900480 - CLONE - クラスターのメンバーシップ変更時、Remote EJB 呼び出しの応答時間が極端に遅い

サーバーがシャットダウンまたはクラッシュした時、メンバーシップ変更の完了に最大1分かかることがあります。この問題は現在調査中です。

923836 - IBM JDK では `remote:// protocol` が SSL 上で動作しない

本リリースの JBoss Enterprise Application Platform 6 では、次の例外により IBM JDK 上でリモートでのネーミングルックアップに断続的に失敗します。

```
org.jboss.remoting3.NotOpenException: Endpoint is not open.
```

■

この問題は、クライアントが IBM JDK を使用する場合に発生するようです。サーバーが IBM JDK 上にあり、クライアントが他の JDK を使用する場合、この問題は発生しません。

この問題の解決方法は現在調査中です。

962734 - EJB 呼び出し中に IOException がスローされるとハングする

サーバー側の EJB プロトコルレシーバーがクライアントより無効なメッセージヘッダーを受信すると、以下に似たメッセージがログに記録され、クライアントがハングします。

```
15:06:46,092 WARN [org.jboss.as.ejb3] (Remoting "dhcp-4-126" task-4)
JBAS014254: Received unsupported message header 0xffffffff on channel
Channel ID 0c51fad8 (inbound) of Remoting connection 4589adff to
/127.0.0.1:33329
```

無効なメッセージヘッダーが受信され、ログに記録されると、EJB プロトコルレシーバーはチャンネルへ再登録しないため、その後のメッセージへ応答しません。元のメッセージはサーバーによって処理されないため、クライアントは送信されない応答を待ち続ける状態になります。

この問題には部分的な回避法が存在します。EJB クライアントコンテキストの作成時に `invocation.timeout` プロパティを設定すると、永久にクライアントがハングしなくなりますが、クライアントが EJB 呼び出しを継続できなくなります。

Hibernate

900321 - NaturalIdLoadAccess を使用して naturalIdQuery による結果を取得する時、適切な natural-id-value をキャッシングするのに HHH-7287 の問題が発生する

非トランザクションのシナリオより `natural-id` の値を更新した後に 2 次 (L2) キャッシュよりエンティティをロードしようとする時、Hibernate インターフェース `NaturalIdLoadAccess` の挙動に一貫性がなくなります。

トランザクションと非トランザクションの両方がデータベースにアクセスする場合、Hibernate は現在、ナチュラル識別子を持つエンティティの適切な 2 次キャッシュをサポートしていません。

HornetQ

959616 - アクティベーション中、バックアップのクリーンシャットダウンでデッドロックが発生する

HornetQ バックアップサーバーとして設定された JBoss Enterprise Application Platform 6 サーバーは、以下の状況下でシャットダウンに失敗します。

- メッセージ駆動型 Bean がサーバー上にローカルでデプロイされている。
- サーバーのアクティベーション中にシャットダウンコマンドが実行される。

このような状況では、シャットダウンによりデッドロックが発生し、シャットダウンプロセスが完了しません。デッドロックが発生したら、サーバーを強制終了する必要があります。Red Hat Enterprise Linux 6 では `kill -9` コマンドを使用してサーバーを強制終了できます。

このような状況を避けるため、アクティベーションの前または後でのみサーバーをシャットダウンし、ジャーナルローディングプロセス中にシャットダウンしないようにしてください。

899966 - IPv6 link-local アドレス上の Netty に問題あり

JDK のバグにより、リンクローカルアドレスを使用すると、選択されたインターフェースを区別するためゾーン ID が使用されます。この問題はグローバルアドレスには影響しません。今後のバージョンの Netty コンポーネントに回避法が含まれる予定です。

912653 - Clone: リモート JNDI が HornetQ 専用の JMS ブリッジと動作しない

https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=912653 を参照してください

IPv6 サポート

900564 - ログエントリーの IPv6 アドレスの書式が間違っている

IPv6 アドレスは `http://[2620:52:0:105f::ffff:2]:9990` のように各括弧 ([および]) を用いた書式でなければなりません。JBoss Enterprise Application Platform 6 のログファイルでは各括弧が省略されています。この問題は今後のリリースで修正される予定です。

900609 - サーバーが IPv6 にバインドされていると Windows 上で IPv4 ソケットが開かれる

IPv4 スタックを無効にし IPv6 スタックを有効にした状態で JBoss Enterprise Application Platform 6 を Microsoft Windows サーバーで起動すると、IPv4 ソケットが開かれます。この問題は現在調査中です。

JCA

952277 - xa-data-source を無効にすると、enabled が false に設定されている data-source の属性を損失し、再ロード後に有効になる

JBoss EAP 6 サーバーインスタンスがリブートされると、無効になっている非 XA データソースが誤って有効になる既知の問題が存在します。

この問題は、無効になっている非 XA データソースと XA データソースが同じサーバー上にあり、JBoss EAP 6 サーバーのリブート前に XA データソースが無効化されると発生します。

この問題の原因は現在調査中です。

mod_cluster

958991 - ProxyPass / balancer://bal および CreateBalancers 1 を使用する時の mod_cluster コア

JBoss Enterprise Application Platform 6 にて、`CreateBalancers 1` を `/conf.d/mod_cluster.conf` に設定し、`stickysession=JSESSIONID|jsessionid` を設定しないと、次の断片化エラーが発生します。

```
[notice] child pid 7787 exit signal Segmentation fault (11)
```

この問題を解決するには、`CreateBalancers` に `stickysession` 要素を追加します。

例は次の通りです。

```
CreateBalancers 1
```

```
ProxyPass / balancer://qacluster stickysession=JSESSIONID|jsessionid
```

963720 - mod_cluster: Solaris 上で Ipv6 のプロキシ DNS ルックアップに失敗する

Java は IPv6 とともに `2001:db8:0:f101::1%2` に似たゾーン値を返します。その後ノードアドレスを返すと、Java に存在する IPv6 の情報を `modcluster` サブシステムが送信します。Solaris では、`apr_sockaddr_info_get()` が返された形式をサポートせず、IP をホスト名として解決しません。その結果、`httpd mod_cluster` が想定される IPv6 ノードアドレスとして動作しません。

この問題を回避するには、Web サブシステムコネクタで `address="hostname"` を使用します。

960243 - ProxyPass 統合のバグ再発

JBoss EAP 6 に含まれていた以前のバージョンの `mod_proxy_cluster.so` により、ディレクトリ (`/app/clusterbench/requestinfo/` など) へアクセスすると HTTP 503 エラーが返されるバグが再発しました。

これは JBoss EAP 6.1.1 の既知の問題で、現在回避法は存在しません。

901227 - Web コンソールの node-timeout、worker-timeout、flush-wait および ttl mod_cluster 属性

JBoss EAP 6 の Web ベース管理コンソールには、次の `mod_cluster` 属性を表示できず、これらの属性に `-1` を値として設定できない既知の問題が存在します。

- `node-timeout`
- `worker-timeout`
- `flush-wait`
- `ttl`

`-1` がすでに設定されている場合、管理コンソールは属性値として `0` を誤って表示します。管理コンソールを使用して属性の値を `-1` に設定しようとする、管理コンソールが `Invalid numeric value` を表示して警告します。

この問題を回避するには、管理 CLI を使用してこれらの属性の値を `-1` に設定します。

この問題の原因は現在調査中です。

900801 - CLI より modcluster を追加できない

管理 CLI より 1 つのコマンドを使用して `mod_cluster` サブシステムを追加できず、複数のコマンドを個別に実行しても追加できない既存の問題が JBoss EAP 6 に存在します。

`/subsystem=modcluster:add()` コマンドを実行するには、同じコマンドセットの一部としてコネクタを追加する必要がありますが、`/subsystem=modcluster:add()` コマンド自体はコネクタの設定を許可しません。

管理 CLI より `mod_cluster` サブシステムを追加しようとする、`JBAS014746: connector may not be null` エラーが表示され追加に失敗します。

この問題を回避するには、次のように **add()** およびコネクター設定コマンドをバッチモードで実行します。

```
[standalone@localhost:9999 /] batch
[standalone@localhost:9999 / #] /subsystem=modcluster:add
[standalone@localhost:9999 / #] /subsystem=modcluster/mod-cluster-
config=configuration:add(connector=ajp,advertise-socket=modcluster)
[standalone@localhost:9999 / #] run-batch
```

この問題は今後のリリースで修正される予定です。

980246 - **mod_cluster-manager** が単一の **VirtualHost** よりエイリアスを分割し、ページが乱雑になる
https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=980246 を参照してください。

トランザクションマネージャー

988724 - PostgreSQL に対してクラッシュリカバリーを実行すると、ロールバックの試行時に例外が発生する

特定のリカバリー状況で PostgreSQL JDBC ドライバーが誤ったリターンコードを返す問題が確認されました。

トランザクションの準備フェーズ中にクラッシュが発生した後、**Java Transaction Service (JTS)** を実行しているトランザクションマネージャーがリカバリーを実行すると、この問題が発生します。これにより、**XAException** メッセージがサーバーログに書き込まれます。

この問題は、存在しないトランザクション **Xid** に対する 2 つ目の呼び出しが原因で発生しますが、この挙動は JTS 仕様では有効であると定義されています。

この問題は、PostgreSQL JDBC ドライバー内では不適切な挙動であると判断され、ドライバーの問題とその状況は <https://github.com/pgjdbc/pgjdbc/issues/78> で確認できます。

その他

900047 - Linux/Unix で **SystemMemoryUsageLoadMetric** が間違っている

Linux または UNIX オペレーティングシステムで、**SystemMemoryUsageLoadMetric** が有用な情報を表示しません。**HeapMemoryUsageLoadMetric** が提供する情報のほうが役に立ちます。**buffers/cache** の値を **used** の番号より差し引くよう **SystemMemoryUsageLoadMetric** のアルゴリズムを変更するとこの問題を解決できますが、最良の方法は調査中です。

901231 - IBM JDK での **finalize()** の使用には追加のガードが必要

IBM JDK 6 または 7 を JBoss Enterprise Application Platform 6 で実行すると、断続的な障害が発生することがあります。これは、IBM のガベージコレクターが他の JVM よりもはるかに積極的であるからです。これが原因で、想定外の状況でメモリーが回収されることがありますが、他のマシンでテストを行っても再現されません。

Red Hat は、この問題が解決するまで JBoss Enterprise Application Platform 6 を IBM JDK 6 または 7 で稼働しないことを推奨します。

901210 - デプロイディレクトリのクリーンアップ- AS7-6031

https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=901210 を参照してください。

RESEasy

958896 - RESEasy: 応答 Invalid Content-Type - 無効な許可ヘッダーが要求ヘッダーに指定されると不正な挙動が発生する

JBoss EAP 6 の RESEasy サブシステム内に、受信した HTTP 要求に無効な `accept` ヘッダーがあると、不適切な **HTTP 200** 応答が送信される問題が存在します。

無効な `accept` ヘッダーが提供された場合、適切な応答は **HTTP 500** です。この問題は現在調査中です。

スクリプトとコマンド

990227 - スクリプトなどから無人で `jboss-cli.sh` を実行するとフリーズする

`jboss-cli.sh` スクリプトが別のスクリプトから呼び出される場合、スクリプトに認証情報(ユーザー名やパスワード)をパラメーターとして指定しないと、呼び出されるスクリプトがハングします。これは既知の問題で、今後のリリースで解決される予定です。このスクリプトを他のスクリプトから呼び出す場合は、必要なパラメーターをすべて指定するようにしてください。

916960 - 括弧が EAP へのパス上にあると `Standalone.bat` が動作しない

本リリースの JBoss Enterprise Application Platform 6 では、Windows インストーラーと、括弧が含まれるデフォルトディレクトリへのインストールに問題があることが分かっています(例: `C: Program Files (x86)\jboss-eap-6.1\`)。

このような場合、`standalone.bat` ファイルの実行に失敗し、`\jboss-eap-6.1 was unexpected at this time` というメッセージが出力されることがあります。

これは、DOS プロセッサが「Echo された」JBoss パス名の右括弧を先行する `if` ステートメントの最後として解釈するためです。

この問題を解決するには以下に従います。

1. エディターで `JBOSS_HOME\bin\standalone.bat` ファイルを開きます。
2. 次の行を見つけます。

```
echo    JBOSS_HOME: %JBOSS_HOME%
```

3. `%JBOSS_HOME%` 変数の前後に二重引用符を追加します。

```
echo    JBOSS_HOME: "%JBOSS_HOME%"
```

これにより、括弧が正しく解釈され、`standalone.bat` が正常に実行されるようになります。

998913 - `standalone.bat` が `-XX:+TieredCompilation JVM` オプションを設定する

JBoss EAP 6 には、Windows サーバー上のスタンドアロン設定のパフォーマンスが潜在的に劣化する既知の問題が存在します。

この問題は、`standalone.bat` の `-XX:+TieredCompilation JVM` オプションの設定が原因で発生します。

この問題を回避するには、`-XX:+TieredCompilation JVM` オプションを設定する以下のコードを、`standalone.bat` より削除します。

```
if not "%PRESERVE_JAVA_OPTS%" == "true" (
    rem Add tiered compilation, if supported (64 bit VM), and not
    overridden
    echo "%JAVA_OPTS%" | findstr /I "\-XX:\-TieredCompilation \-client" >
    nul
    if errorlevel == 1 (
        "%JAVA%" -XX:+TieredCompilation -version > nul 2>&1
        if not errorlevel == 1 (
            set "JAVA_OPTS=-XX:+TieredCompilation %JAVA_OPTS%"
        )
    )
)
```

この問題は、JBoss EAP 6 の今後のリリースで修正される予定です。

956281 - 32 ビット jvm で EAP 6.1 を起動すると、JVM の起動に失敗することがある

Windows 8 の 32 ビット JVM では、デフォルトの最大パーマネント領域設定が原因で JVM が作成されず、サーバーが起動しません。この問題を回避するには、JVM の起動パラメーターから `-XX:MaxPermSize=256m` パラメーターを削除します。これにより、JVM が作成され、サーバーが起動するようになります。

セキュリティ

920160 - カスタム承認モジュールによって保護される Web アプリケーションへの不正アクセスが HTTP 403 (Forbidden) でなく HTTP 200 (OK) になる

カスタムの承認モジュールを使用する Web アプリケーションで非承認の HTTP 要求が試行されると、空の **HTTP 200 (OK)** 応答が返されます。未承認の HTTP 要求に対する適切な応答は **HTTP 403 (Forbidden)** です。この問題は現在調査中です。

Web サービス

900634 - request-response メッセージの場合、JBossWS-CXF がフォルトメッセージを FaultTo エンドポイントに送信しない

WS-Addressing の **FaultTo** 要素が WS クライアントに設定されていると、WS サーバーはフォルトメッセージを **FaultTo** 宛先に送信しません。しかし、**ReplyTo** 要素が設定されていると WS サーバーが応答を **ResponseTo** 宛先へ送信しません。この問題の原因は調査中です。

A. 改訂履歴

改訂 1.1-5.3.402 Rebuild with Publican 4.0.0	Tue Nov 12 2013	Rüdiger Landmann
改訂 1.1-5.3 翻訳ファイルを XML ソースバージョン 1.1-5 と同期	Thu Nov 7 2013	Junko Ito
改訂 1.1-5.2 completed	Wed Nov 6 2013	Junko Ito
改訂 1.1-5.1 Translation files synchronised with XML sources 1.1-5	Wed Nov 6 2013	Xi Huang
改訂 1.1-5 JBoss Enterprise Application Platform 6.1.1 GA リリース。	Wed Sep 4 2013	Russell Dickenson